

第3章 計画の実現に向けた取組

基本方針Ⅰ 子どもの読書環境の整備・充実

子どもは、生活の中で身近な大人などの影響を受けながら、発達段階に合わせて本に親しんでいきます。

乳児期の子どもは、身近な大人と絵本やわらべ歌を楽しみ言葉を獲得します。幼児期には、主人公になりきって絵本やおはなしの世界を存分に楽しめます。「その先はどうなるの?」と夢中で聞く経験を重ね、「本は面白いものだ」という本への信頼を築いていきます。乳幼児期の読み聞かせは、子どもたちの「読書を楽しむ力」の根っこを育てます。

小学生になって読み書きができるようになった子どもも、読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング等によって読書の楽しさを知ることができます。たとえ読書が苦手でも、読んでもらえば物語の世界を鮮明に思い描くことができます。作品をよく味わい、深い感動を得ることができ、本に対する興味・関心を喚起するきっかけになります。また、図鑑や知識の本などさまざまな本に触れることで、知的な好奇心が芽生え、自分で調べる力もつき、科学的・論理的な思考が育っていきます。

中学生になると、子どもたちは勉強、部活動、塾通いなど、忙しい生活を送るようになります。思春期を迎え、さまざまな悩みや関心を持つようになり、趣味嗜好も多様になります。読書から遠ざかりやすいこの時期には、子どもの自主的な読書を尊重し支援すること、保護者やまわりの大人が本の話題を提供することなどが、読書活動の継続につながります。

幼児から中学生まで、子どもたちが本を身近に感じ、読書に親しむ習慣が身につけられるように、子どもの読書環境の整備・充実に努めます。

■本に親しむ子どもが育つ環境とは・・・

1. 子どもの身近に、その子どもに適した、読んで楽しい本がたくさんあること。
2. 子どもの身近に、子どもと一緒に本を楽しんでくれる大人がいること。
3. 子どもの生活の中に、本を読むことに集中できる時間と空間があること。

1. 子どもが読書に親しむ機会の提供・充実

(1) 家庭における読書活動の促進

子どもの読書環境は日常の生活を通して形成されるものです。毎日過ごす家庭の中で子どもたちが自然に本とふれあい、読書に親しむようになるためには、子どもの成長に読書が大切な役割を果たすことを保護者に理解してもらうことが重要です。保護者の読書活動に対する理解を深め、家庭を巻き込んで、家庭における読み聞かせや読書活動（「家読（うちどく）」*1）を促進させるために、各種啓発事業や読書相談などを行います。

○ブックスタート（4か月児と保護者対象）

【図書館】

○ブックスタートプラス（2歳6か月児と保護者対象）

【図書館】

保健センターで実施されている乳幼児健診の後、図書館で子どもと保護者1組ごとに読み聞かせを行い、絵本を進呈します。経験豊かなスタッフの読み聞かせで、保護者に子どもが絵本に興味を示す姿を見てもらい、読み合う楽しさを知らせることで、家庭における読み聞かせの活発化を働きかけます。図書館特製のおすすめの絵本リスト（読み方アドバイス付き）と図書館利用案内を手渡し、図書館で読書相談やおはなし会を行っていることを伝えます。



ブックスタート(4か月児)



ブックスタートプラス(2歳6か月児)

○親子参加のおはなし会の充実と家庭への啓発

【図書館、児童館】

* 図書館おはなし会等で、親子読み聞かせや家読を推奨

絵本の読み聞かせなどを行う「ぐりぐらタイム」（6か月～1歳向き／2.3歳向き／3歳以上向き）、小学生向き読み聞かせとブックトークの会「としょかんくらぶ」（1.2年生／3～6年生）、ストーリーテリングを楽しむ「おはなし会」、

*1 家読（うちどく）：「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味する。親子で本を読むことでコミュニケーションすることで、家族が楽しい時間を共有することを目的とする。

科学の本に親しむ「科学工作教室」、人形劇やパネルシアター等を交えて本を紹介する「としょかん・クリスマス会」など、すべての事業で保護者の参加を奨励します。保護者に子どもと本を読み合う楽しさを体験してもらい、子どもと一緒に楽しめる良書を紹介するなどし、家読の活発化を図ります。



図書館「としょかんくらぶ」



児童館「あそびのへや」

*** 児童館「あそびのへや」で、親子で絵本を楽しむ機会を提供**

北永井児童館、藤久保児童館、竹間沢児童館の各館で実施する「あそびのへや（2歳未満／2歳～就園前）」の中で、絵本の読み聞かせを積極的に取り入れ、親子で本に親しむ機会を増やします。

○子育て講座・PTA主催講座等における啓発

【図書館、公民館、子育て支援センター、生涯学習課】

*** 図書館の「子どもの本の講座」で、保護者対象の読み聞かせ講座等を実施**

図書館は、子どもに読み聞かせをする楽しさを伝えるとともに、読み聞かせの方法や留意点、子どものための本を選ぶときの留意点等を学ぶ講座を実施し、家庭における読書活動の推進に努めます。

*** 中央公民館や子育て支援センターで、絵本やわらべうたの講座を実施**

公民館や子育て支援センターは、図書館や読書ボランティアと協力し、乳幼児と保護者を対象に、絵本やわらべうたを楽しみ、絵本の知識を得ることができる講座を実施します。

*** 小中学校PTA主催事業等で、読書関連講座等を実施**

PTA主催の家庭教育学級などの行事や「親の学習」等で、保護者に子ども時

代の読書の大切さを伝え、読み聞かせ・家読などの促進について理解を深める講座の実施に努めます。

○子どもの読書に関する相談サービス 【図書館】

* 図書館児童カウンターで、常時対応

図書館児童カウンターに、子どもを理解し子どもの本についてよく知る児童サービス担当司書や専門職員を配置し、いつでも気軽に読書相談が受けられる体制を継続させます。

○「家読（うちどく）」の推奨 【図書館、小・中学校】

「よみ愛・読書のまち」宣言をした三芳町は、毎月23日を「よみ愛・読書の日」と決めました。「よみ愛・読書の日」には、家族と本を読み合う「家読」が活発に行われるように、周知・推奨・促進に努めます。

(2) 図書館における読書機会の提供・充実 【図書館】

図書館は、地域における子どもの読書活動の拠点施設であり、豊富な蔵書の中から子どもたちが、読みたい本を自由に選び、自由に読むことのできる場所です。子どもたちが気軽に立ち寄り楽しく本と出合うことができるよう、さまざまな事業を読書ボランティアの協力を得て行います。

図書館では、読書の楽しさを伝える効果的な手法として、①読み聞かせ、②ストーリーテリング（おはなし、素話〈すばなし〉、語り）、③ブックトークを、おはなし会などで積極的に行います。司書や職員が子どもの発達段階に応じた心に響く本を選び、楽しい雰囲気の中で手渡し、本好きな子どもを育てるように努めます。

① 読み聞かせ

一般的には、大人が子どものために本を読んであげること。子どもと一緒に本を楽しみます。赤ちゃんやまだ本を読めない幼児でも、読んでもらうことで本の世界を楽しむことができます。自分で本が読めるようになった子どもも、読んでもらうと活字を読むわずらわしさ抜きで物語に集中できるので、本を読む楽しさを実感することができます。また、じっと聞くことで情景や人物の心の動きを丁寧に思い描くことができ、読書力の基礎となる“イメージして楽しむ力”や“深く読み取る力”が育ちます。読書する時間が少なくなった高学年や中学生に、本に対する興味・関心を喚起する効果もあります。

②ストーリーテリング（おはなし、素話〈すばなし〉、語り）

本に収録された昔話や物語を覚えて語ることです。“聞く読書”を楽しむという点では、読み聞かせと同様ですが、語り手が作品を自分のものにしてから語ることで、その思いや解釈がより伝わりやすく、本を使わないので、語り手と聞き手の視線が合いやすいという利点があり、読み聞かせとはちがう感動が生まれます。

子どもは、本の挿絵にしばられることなく独自の世界をイメージして楽しみます。聞くことに集中し、言葉の響きや表現にも敏感になります。こうして文学を楽しむ素地が育ちます。

語り手は、覚えた文章を暗唱するのではなく、お話の世界を思い描いて伝えるように語ります。大変な労力ですが、聞き手にも語り手にも、その労力に見合うだけの喜びを与えてくれます。

③ブックトーク

テーマを決めるなどしてあらかじめ用意した数冊の本を、お話の流れに沿って読みたくなるように紹介することです。子どもたちに「世の中には面白そうな本がたくさんある」と気づかせることができれば、広い意味で目的を達成したといえます。

子どもたちは、一つのテーマから様々なジャンルの本へと展開されるブックトークを楽しむ体験を経て、視野を広げる面白さに気づき、読書の領域を広げていきます。すでに読書に親しんでいる子どもに対しても、読書活動の質を高めることができます。

○図書館 子ども読書動機づけ事業（おはなし会等）**【図書館】**

対象年齢を細かく分け、子どもの成長や読書力に合った内容で行い、楽しみながら、聞く力、読む力が付くようプログラムに工夫を凝らします。手作り人形を使った詩の暗唱やわらべうた等を織り交ぜ、子どもたちの言葉をはぐくみます。

***ぐりぐらタイム（対象：6か月～1歳／2.3歳／3歳～小学生）**

内容：絵本・紙芝居・わらべうた・ストーリーテリング・ブックトーク

***としょかんくらぶ（対象：小学1.2年生／小学3～6年生）**

内容：読み聞かせ（絵本・物語など）・ストーリーテリング・ブックトーク

＊季節のおはなし会（対象：5歳～小学2年生／小学3年生～大人）

内容：ストーリーテリング・ブックトーク

＊科学工作教室（対象：小学1.2年生／小学3～6年生）

内容：実験と工作・ブックトーク（科学の本、工作の本）

＊えほんワールド（対象：1～3歳／3歳～小学生）

内容：絵本・ブックトーク・自転車紙芝居

＊としょかんクリスマス会（対象：2～5歳／5歳～小学生）

内容：人形劇・大型絵本・パネルシアター・手話の歌・ブックトークほか



図書館「ぐりぐらタイム」



図書館「クリスマス会」

（3） 小・中学校における読書機会の提供・充実 【小・中学校】

本と出会う機会の少ない子どもも、学校に入学すると様々な読書活動や調べ学習などで本に親しむ機会が増えていきます。学校は、より多くの子どもたちに読書の喜びを伝えることができる大切な場所であり、子どもの読書習慣を形成する上で大切な役割を担っています。各校の計画に基づき、司書教諭（図書主任）と学校司書（平成10年度に全小中学校に配置）が手を携えて学校図書館の充実を図るとともに、学校全体で組織的・計画的に読書活動を推進させます。

○朝読書

小学校では週1～2回、中学校ではほぼ毎日実施しています。本を読む習慣を身に付ける上で大変有効な朝読書の取り組みを継続させます。

○読み聞かせ、ブックトーク

子どもたちが本に親しみ、様々な本に出合えるよう、担任・担任外の教員、学校司書、読書支援ボランティアによる読み聞かせやブックトークを実施する時間を積

極的に作ります。町立図書館と連携し読書活動を充実させます。

○読書週間、読書月間の取組

読書月間や読書週間（年 1～2 回）を定め、子どもの読書活動を推進する取組を各学校の学校図書館教育の年間指導計画に基づき行います。

* 読書の木

＜模造紙に描いた木の枝に、児童一人一人が自分の読んだ本などの題名を記入した葉っぱ型の紙を貼り付け、大きく繁らせていく＞

* 読み聞かせ

＜担任・担任外教員、学校司書、図書委員児童生徒、ボランティア等が実施＞

* 朗読

＜昼の放送で児童生徒が実施＞

* おすすめの本の紹介、新刊本の紹介

＜児童朝会・図書新聞（図書委員会発行）・昼の放送などで＞

* しおりまつり

＜図書委員手作りのしおりを、本を借りた児童生徒に進呈＞

* 読書週間・読書月間のポスターの掲示 ＜図書委員会児童生徒が作成＞

○「子ども読書の日」（4月23日）の取組

担任による読み聞かせ・学校司書のブックトークなど、「学校でよもよもday」の実施を、全小中学校で継続します。



小学校の校内掲示
「担任の先生による読み聞かせ」



←中学校図書館
おすすめの本に
手描きの
「ポップカード」
（*1）



中学校「図書委員の活動：ポップ製作」

*1 ポップカード：キャッチコピー、おすすめのポイント、イラスト等を記したカード。

○「よみ愛・読書の日」(毎月23日)の取組

「よみ愛・読書のまち」ポスターを掲示するとともに、昼の校内放送で、毎月23日に「よみ愛・読書の日」について全児童生徒に知らせ、読書や家読をすすめます。また、校内においても児童生徒が読書に親しむ機会づくりに努めます。

○「みよしっ子！みんなで読もう、この1冊！」の取組

毎年、小中学校各学年に向けて「三芳町学校図書館教育推進委員会」で選んだ、各学年に付1冊の推奨図書を学級文庫に加えるとともに、その本をできるだけ多くの児童生徒が読むように働きかけます。

○その他の取組

各学校で工夫を凝らし、さまざまな読書活動の推進に取り組みます。

*縦割り読書

＜高学年児童が、低学年児童に読み聞かせをする＞

*本の王様

＜各学級で児童一人一人がおすすめの本を紹介し合い、その中から学級のおすすめ本「本の王様」1冊を選ぶ。全校朝会で各学級の「本の王様」を紹介し合う。それらの本を学校図書館で積極的に貸し出すようにする＞

*読書感想文コンクール優秀作品の校内掲示など

＜本や感想文を朝会で紹介する＞

(4) 保育所(園)・幼稚園等における読書機会の提供・充実

【保育所(園)、小規模保育施設、学童保育室】

絵本やおはなしを夢中で楽しむことのできる乳幼児期に豊かな読書体験をした子どもは、本がとても好きになります。

子どもたちが多くの時間を過ごす保育所(園)などにおける働きかけが重要です。それまで絵本に出合えなかった子どもも絵本に親しむことができ、子どもたちが、絵本、物語、詩などを大いに楽しみ、言葉や感受性を豊かにはぐくむことができるよう、さまざまな取組を実施します。



保育所 読み聞かせ

○保育所（園）・幼稚園や学童保育室における読書の習慣化への取組

* 保育所（園）・幼稚園では、年齢に応じた絵本やおはなし、紙芝居を取り入れた保育や幼児教育を積極的に行います。

* 学童保育室では、日々の活動の中に読み聞かせなどの時間を作り、子どもが本に触れる機会を増やします。

* 職員の研修を充実させ、職員の本の知識や読み聞かせの技能を高めます。

* 保護者に読み聞かせの大切さを伝え、絵本の選び方などについて、具体的な報提供を行えるよう工夫します。

* 家庭に貸し出す絵本コーナーの設置・充実を図ります。

* 町立図書館や読書ボランティアの協力を得て、読み聞かせ等の取組を充実させます。

（５）地域における読書機会の提供・充実

【児童館、子育て支援センター】

家庭、図書館、学校、保育所（園）・幼稚園だけでなく、子どもたちが日々を過ごす地域の施設もまた、子どもの読書の習慣づけに大きな役割を担います。各施設が実施するさまざまな事業の中に、本に興味を持ち、読書の楽しさを知るきっかけを作れるような取組を取り入れていきます。

* 子どもと保護者がともに楽しめる読み聞かせ等の催しを通して、読書機会の拡大に努めます。

* 町立図書館や読書ボランティアの協力を得て、小学生対象のおはなし会等の取組を充実させます。

* 職員の研修を充実させ、職員の本の知識や読み聞かせの技能を高めます。



子育て支援センター「なかよし講座」



児童館「ぐりぐら絵本タイム」

2. 子どもの読書活動を推進するための環境の整備

子どもが日常の中で本に触れる場所として、家庭の他に、保育所（園）・幼稚園、学校、児童館、図書館等があります。子どもたちにとって身近なこれらの場所に、長年子どもたちに親しまれてきた質の高い本、子どもにとって魅力のある本が常にあり、子どもたちの興味を引きつけ、手に取りやすいように工夫がなされている環境を整備します。いつでもどこでも、読みたいときに良質な本に触れられる機会を提供します。

（1）身近に本のある環境づくり

○子どもの本のコーナーの充実

【保育所（園）・幼稚園、児童館、学童保育室、子育て支援センター】

図書の購入及び図書館からの団体貸出や図書館リサイクル本（*1）の活用により、施設に設置されている子どもの本のコーナーの充実に努めます。



保育所の絵本・紙芝居コーナー

*1 図書館リサイクル本：汚損図書・不要図書や買い換え等の理由で除籍する図書館資料のうち、再利用できる状態の児童書や紙芝居を、町内施設で活用している。

○学級文庫等、子どもの本のコーナーの充実 【小・中学校】

図書の購入及び図書館からの団体貸出や図書館リサイクル本の活用により、各クラスに設置されている学級文庫や校内の図書コーナー等の充実に努めます。

○子どもの本のコーナーの充実 【公民館】

図書の購入及び図書館からの団体貸出や図書館リサイクル本の活用により、中央公民館子育てスタジオなどに設置されている子どもの本のコーナーの充実に努めます。



中央公民館の
サテライト図書館

(2) 図書館の機能充実 【図書館】

三芳町の図書館は町が直接運営し、中央図書館（蔵書約 260,000 冊／うち児童書 72,000 冊）、竹間沢分館（蔵書約 15,000 冊／うち児童書 4,000 冊）と配本所 1 カ所（中央公民館）を拠点として、サービスを展開しています。住民 1 人当たり貸出冊数は 8 年連続県内 1 位（平成 27 年度実績で 11.84 冊）で、町民に親しまれ、よく利用されている図書館です。

平成 2 年の中央図書館開館以降、図書館内外で積極的に子どもの読書活動推進に取り組んできました。その成果が認められ、文部科学省から平成 14 年と平成 26 年の 2 度にわたり「子ども読書活動優秀実践図書館」として表彰されました。

今後は、より多くの子どもに図書館を利用してもらえるよう活発に PR を行なうとともに、関係機関や地域団体と連携し、図書館に来られない子どもたちにも読書に親しむ機会を提供できる図書館を目指します。

○子どもの本の選定・収集・提供の充実

* 児童担当司書による専門性を活かし、上質で多様な子どもの本の選定・収集を積極的に行います。児童サービス担当司書・職員が自ら読み、協議し、蔵書に加える子どもの本を選ぶことを原則とします。

*基本図書(*1)やおすすめの本は、多くの子どもたちが借りられるように複本で揃える(*2)とともに計画的に買い換え、良い状態で提供します。

*赤ちゃんから中学生まで、子どもの発達段階や読書力に合った、彼らの興味・関心と呼ぶ本をバランスよく収集し、探しやすく魅力のある書架づくりに努めます。

*季節やテーマに沿った「おすすめの本コーナー」の設置と入れ替えを計画的に行い、子どもたちが様々な本と出合える図書館にします。



中央図書館 児童コーナー

○子ども向けサービスの充実

*児童カウンターに子どもの本をよく知る司書や職員を常駐させ、子どもや保護者の本探し、レファレンス(*3)、読書相談に応えます。

*乳幼児向けおはなし会、小学生向き読み聞かせとブックトークの会、ストーリーテリングの会、科学の本に親しむ科学工作教室など、本を紹介して手渡す事業を充実させます。

*読書ボランティア講座などで養成したボランティアと協力し、子ども向け事業の充実を図ります。

○読書活動の困難な子どもへの支援

*学校との連携・協力のもと、特別支援学級へのブックトーク訪問などを実施します。

*1 基本図書：優れた児童書として評価され、児童図書館における蔵書の核となる図書のこと。

*2 複本で揃える：推薦図書やニーズの高い図書を、1タイトルにつき複数冊蔵書すること。

*3 レファレンス：利用者が探している資料や情報を検索・回答・提供すること。

*点字資料、録音資料等障害に応じた資料の提供についての研究を行い、支援の促進に努めます。

○施設等の整備・充実

*安全で子どもが利用しやすい施設となるよう努めます。おむつ交換台等の定期的な整備、ベビーカーや車いすでも利用できる通路の確保など、施設の改善に努めます。

*地理的な状況により中央図書館に来館できない子どもたちの読書欲求にも応えることができるよう、インターネットサービスや竹間沢分館・配本所（中央公民館）におけるサービスを充実させます。

(3) 学校図書館の機能充実 【小・中学校】

学校図書館は、図書館資料を供すること等により、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、子どもの健全な教養を育成することを目的とするものです。これらの機能を果たすため、学校では、校長のリーダーシップの下、司書教諭（図書主任）及び学校司書が中心となり、ボランティア等の協力を得て、学校図書館の環境を整備し、使いやすく魅力のある学校図書館づくりを進めます。子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心にこたえる魅力的な本や、教科学習に役立つ本を用意し、子どもがそれらを活用できるようにします。

○学校司書配置による学校図書館の機能充実

三芳町では、平成8年度から町立小中学校の学校図書館に順次司書を配置し始め、平成10年度には全校に1名ずつ学校司書を配置する体制が整いました。学校図書館の整備がすすみ、読書案内や声かけで貸出冊数が増え、授業に学校図書館を活用する教員も増えました。今後も、学校司書を継続的に配置し、学校図書館機能を充実させます。

*学校司書は、司書教諭（図書主任）と連携・協力して学校図書館の管理運営、環境整備、読書案内、学校図書館便りの発行、子どもの読書意欲を喚起させる取組などを行います。また、担任から依頼を受け、授業や調べ学習に使う図書の用意や児童生徒への読み聞かせ・ブックトークなどを行います。

○子どもの本の選定・収集の充実

司書教諭（図書主任）と学校司書が連携・協力して調べ学習・教科関連図書の収集と新刊の選定に努め、児童生徒の読書意欲・学習意欲を喚起する魅力のある学校図書館づくりを進めます。

*情報が古い等で使えなくなった不要図書の廃棄、汚損した良書の買い換え等、蔵書の新陳代謝を丁寧に行いながら、学校図書館図書標準（*1）の達成を目指します。

H27 年度学校図書館整備状況

	H27 年度末 現有蔵書数(A)	クラス数 H27.5.1	児童生徒数 H27.5.1	学校図書館図書 標準(B)	充足率 (A)÷(B)
三 芳 小	9,379	24	740	11,560	81.13%
藤久保小	9,328	20	567	10,760	86.69%
上 富 小	5,339	6	127	5,080	105.10%
唐 沢 小	8,753	14	454	9,960	87.88%
竹間沢小	6,685	12	322	7,960	83.98%
小 計	39,484	76	2,210	45,320	87.12%
三 芳 中	8,703	14	447	11,200	77.71%
三芳東中	9,345	12	417	10,160	91.98%
藤久保中	8,013	7	236	8,480	94.49%
小 計	26,061	33	1,100	29,840	87.34%
合 計	65,545	109	3,310	75,160	87.21%

注 1) H27 年度末現有蔵書数は、寄贈冊数を含む。

注 2) H27 年度における 1 人当たりの貸出冊数は、小学校全校の平均で 31.8 冊、中学校は全高の平均で 9.3 冊

*季節や学習過程に即した図書を特設コーナーで紹介する「テーマ展示」、「国語の教科書に載っている本コーナー」、「“みよしっ子！みんなでよもう、この1冊！”コーナー」、「ブックリスト“みよしまちどのほんがすき？”コーナー」などを設置し、子どもたちが質の高い本と出合えるように工夫します。

* 1 学校図書館図書標準：文部科学省が定めた、学校規模に応じて学校図書館に整備すべき蔵書数。

○施設等の充実

学校図書館が子どもたちにとって、安心して読書や調べ学習を楽しむことのできる“心のオアシス”となるよう、さまざまな取組を推進して施設等の整備・充実を図ります。学校図書館における環境整備が、子どもの読書意欲や学習意欲を高めるためにも重要であるという点について共通理解を深めるため、教職員研修会等を実施します。

＜施設等環境整備の取組＞

- * 読書を楽しむ空間づくり（カーペットや畳敷きの読書コーナーの設置等）
- * 調べ学習などの授業に対応できる机やいすの整備
- * 探しやすく読みたくなる書架づくり（図書ラベル、書架サイン等の整備）
- * 折り紙、ぬいぐるみ人形等を使い工夫を凝らした掲示、本の紹介コーナー
- * 学校応援団やボランティアによる図書の修理、書架整備など

○図書館システム活用と、貸出・予約・図書検索などの充実

三芳町では、平成20年（2008年）に、中央図書館・各学校図書館の蔵書情報が共有できる連携図書館システムを導入しました。このシステムを、貸出、図書検索、予約、蔵書管理、資料研究、資料収集に十分に活用し、学校図書館の機能を充実させます。

* より多くの子どもたちが学校図書館の本を利用できるよう、利用できる時間を増やす等の方策を検討し、その実現に努めます。

* 児童生徒が自分たちの学校図書館だと認識できるよう、学校司書や担当教諭だけでなく、図書委員など児童生徒が貸出、書架整理、壁面展示、蔵書点検などに主体的に関わる機会を大切に、活発に利用される図書館にします。



小学校図書館 図書のテーマ展示



中学校校図書館 蔵書点検作業

基本方針Ⅱ 図書館・学校・地域等の連携による 推進体制の整備

子どもの成長には多くの大人が関わっています。乳幼児期の子どもには家庭が育ちの場の中心ですが、やがて、保育所（園）・幼稚園や学校で多くの時間を過ごすようになります。放課後や休日には、児童館や学童保育室、図書館にも出かけていきます。子どもたちが、いつでもどこでも本と出会うことができ、自主的な読書活動ができるように、子どもと子どもの本に関わる図書館・学校・地域のさまざまな施設・地域ボランティアが連携して子どもたちに良質な本を紹介し、手渡していくことが重要です。

これらの関係機関の連携を充実させ、相互に協力しながら、子どもの読書活動の支援と読書環境整備に取り組みます。

1. 学校と図書館の連携

平成2年(1990年)の中央図書館開館にともない、図書館では学級文庫への団体貸出サービスを強化し、平成4年(1992年)には図書館司書が学校の教室に出向く「学校ブックトーク訪問」を開始しました。平成10年に全小中学校に学校司書が配置されると、図書館は学校司書の相談窓口、研修機関としての役割も担うようになりました。着実に築いてきた学校と図書館との連携体制を活かし、子どもたちの自主的な読書活動を支援します。

(1) 「三芳町学校図書館教育推進委員会」と「司書連絡会」

○文部省（現文部科学省）の委嘱研究と

「三芳町学校図書館教育推進委員会」の設置 【学校教育課】

三芳町では、これまでに2度、文部省の読書推進に関する委嘱研究を行っています。平成7、8年度、唐沢小学校が「文部省読書指導研究指定校」となり、「児童の読書意欲を高めるための学校図書館活用法の研究」に取り組みました。また、平成10、11、12年度には、「文部省学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業研究」を委嘱され、「三芳町学校図書館教育推進委員会」（事務局：学校教育課）を設置し、学校教育課、小中学校、町立図書館が連携して、子どもの読書活動推進に関する研究及び実践活動に取り組む体制を整えました。学校図書館への司書配置も

順次進み、平成10年度には町内小中学校全校に司書を1名ずつ配置しました。

司書の配置により学校図書館の整備がすすみ、司書の読書案内や声かけで貸出冊数が増え、調べ学習など授業に学校図書館を活用する教員も増えました。今一度、このような取組の経験から学び、こうした取組での成果を確認しておく必要があります。

○「三芳町学校図書館教育推進委員会」(平成10年～)

の活動による読書活動推進 【学校教育課】

各校における読書活動を推進する取組の情報交換を行い、町内全小中学校で一斉に取り組む活動計画を策定しています。学校教育課を事務局(担当:指導主事)とし、校長会から1名、教頭会から1名、各校から司書教諭(図書主任)と学校司書が1名ずつ、図書館から館長及び司書が1名以上が参加し、年3～4回開催します。

＜「三芳町学校図書館教育推進委員会」の主な取組＞

* 情報交換

この委員会は、町内小中学校における子ども読書活動を共に推進させる上で大変貴重なネットワーク機関です。学校間で情報を交換・共有ながら、子どもたちの読書活動をより推進する取組ができるよう努めます。

* 「みよしっ子! みんなで読もう、この1冊!」

司書教諭(図書主任)と学校司書が、小学1年生から中学3年生の各学年に向けたおすすめの本を毎年1冊ずつ、「みんなで読もう!」と選び、選定した本を「子ども読書の日」(4月23日)又はその前後に児童生徒に発表します。また、その本を各教室の学級文庫に加え、「みんなで読もう!」と、学校全体で積極的に働きかけます。毎年1冊ずつ各教室の学級文庫に良書が増え、児童生徒と教職員がともに読書に関心をもつ機会となるこの取組の継続・充実を図ります。

* 読書活動推進に必要な研修

年1回は、図書館司書や外部講師等による研修を実施し、司書教諭(図書主任)・学校司書の資質向上に努めます。



学校図書館教育推進委員会研修会
「家読」について(講師:佐川二亮氏)

○「司書連絡会」(平成10年～)の活動による読書活動推進

【学校教育課、図書館】

「司書連絡会」は、学校教育課を事務局とし、年12回開催されます。会のメンバーは、指導主事1名、小中学校の学校司書8名、図書館司書1名です。学校司書と図書館司書が定期的に集まり情報交換と学習を重ねることで共通の認識と志を持ち、子どもたちの読書活動推進に取り組むことができます。

<「司書連絡会」の主な取組>

* 情報交換

図書発注等の実務全般、本の評価に関すること、読書意欲を向上させる手法や取組などの情報を交換し、各学校の図書館活動の活性化に役立てます。

* 「みよし司書通信『よもよも』」の発行

児童生徒や保護者に向けた学校図書館の活動周知と、学校図書館の利用促進を目的に、学校司書が選んだおすすめの本などを紹介する「みよし司書通信『よもよも』」を発行し、全校児童生徒に配布します。

* 「みよしっ子! みんなで読もう、この1冊!」の準備等

「みよしっ子! みんなで読もう、この1冊!」の取組のために、候補図書のリストアップ、チラシ・掲示ポスター作成等を行い、取組を充実させます。



平成28年度
「みよしっ子! みんなで
読もう、この1冊!」ポスター

(2) 学校と図書館の連携体制と連携事業

○図書館と学校図書館のシステムを連携

【図書館、学校教育課】

平成20年度の中央図書館コンピュータ・システムの更新に伴い、学校図書館コンピュータ・システムを立ち上げ、中央図書館サーバーで各学校の蔵書データ等を管理しています。学校図書館の図書発注データ取り込みなど、データ管理上の作業の一部を図書館が行っています。

学校図書館システムでは、児童生徒の貸出管理、蔵書管理を行います。図書館と各学校図書館の蔵書情報を共有できるこのシステムを利用し、教科で使う資料の収集や図書館リサイクル本の有効活用に役立てます。

○学校と図書館の連携を深める取組

【図書館、小・中学校】

学校と図書館との連絡係を担っているのが、学校司書です。教員から依頼を受けて授業に使用する図書を図書館から借り受けたり、ブックトーク実施日の日程調整等を行ったりしています。また、図書館では、小中学校に対して、次のような事業を行っています。

* 図書館の団体貸出サービス

図書館では、学級文庫などに団体貸出サービスを実施します。学校への団体貸出サービスは、1クラス40冊90日間です。

* 図書館司書の学校ブックトーク訪問

学校からの依頼に応じ、図書館司書が小中学校のクラスに出向きブックトークを行います。図書館の推薦図書を楽しく紹介し、子どもたちの読書意欲を喚起するとともに、図書館を身近に感じてもらうことを目的としています。

ブックトークを実施する際には、対象となる子どもの年齢や読書力を考慮し、子どもたちが基本図書を中心としたさまざまな分野の本と出合えるように努めます。平成27年度には、小学校5校全クラス、76クラスを訪問しました。



図書館司書によるブックトーク
(上：小学校、下：中学校)

*** 小学校授業の中で、図書館見学と図書館利用体験**

小学校の授業の一環として、児童が町立図書館を訪問し、図書館司書が読み聞かせなどを交えながら図書館の利用の仕方を説明します。町立図書館の本を借りて帰る練習などを行い、子どもたちが図書館に親しむ良い機会となります。平成27年度は、3校、10クラスが来館しました。



小学生の「図書館利用体験授業」

*** 学校・図書館の読書イベント・研修会等における相互協力**

学校と図書館は、学校の読書イベントへの図書館司書等の協力や、図書館事業への参加奨励、「家読」推奨、「よみ愛・読書の日」の周知等、さまざまな面で連携し、子どもたちの読書活動を支援します。また、夏休み期間を利用して教職員・学校司書・図書館司書が共に研修・交流できる機会を持つなど、学校と図書館との連携を深める機会づくりに努めます。

2. 地域における関係機関の連携

(1) 図書館・保健センター・公民館・児童館等の連携

【図書館、公民館、児童館、保健センター】

図書館・公民館・児童館・保健センター等、子どもが集まる町の施設や関係機関が連携することで、子ども時代の読書活動の重要性を周知して子どもの読書活動を支援する人の輪を広げ、読書活動の拠点である図書館の利用促進を図ります。

○図書館・保健センターとの連携

4か月児対象のブックスタート、2歳6か月児対象のブックスタートプラスを継続・充実させます。また、出産を控えた親を対象とする講座や子育て講座などで、図書館・保健センター連携による取組を、図書館読書ボランティアとの連携も視野に入れながら研究し実施に向けて努めます。

○図書館・公民館・児童館等との連携

* 中央公民館と図書館が連携し、読書ボランティアの協力を得て実施する「おひざでだっこ えほんとわらべうたの会」(0~2歳児と保護者対象)等、連携による

取組を充実させます。

*竹間沢児童館「あそびのへや」に図書館司書が出向く「ぐりぐら絵本タイム（0・1歳児と保護者対象／2～6歳児と保護者対象）等、連携による取組を充実させます。

*子育て支援センター等の事業の中で、図書館司書が講師となり絵本の選び方・楽しみ方を伝える講座等、連携による取組を充実させます。



図書館・児童館の連携事業
「あそびのへや ぐりぐら絵本タイム」



図書館・公民館の連携事業
「おひざでだっこ えほんとわらべうたの会」

（2）ボランティア・地域団体等との連携

子どもの読書活動には、学校や図書館等の行政機関だけでなく、図書館読書ボランティア、学校支援ボランティア等、多くの人が関わっています。これらの連携を深めることで、より多くの子どもたちに本に親しむ機会を提供していきます。

○子どもの読書活動を支援する町のボランティア

*図書館を活動の拠点とする読書ボランティア 【図書館】

図書館では、図書館内外で子どもたちに本を読む楽しさを伝える読書動機付け事業を、147回（平成27年度実績）実施し、その多くを読書ボランティアの協力を得て行っています。今後もボランティアとの連携により、子どもたちにとって身近で楽しい図書館となるよう各事業を充実させます。

＜図書館を活動の拠点とする読書ボランティア一覧＞

名 称	主 な 活 動 内 容
ぐりぐらボランティア	主に中央図書館の乳幼児向けおはなし会「ぐりぐらタイム」で、絵本・紙芝居の読み聞かせを、職員に協力する形で実施。その他図書館の児童サービス事業に幅広く協力。
ブックスタート及びブックスタートプラスボランティア	ブックスタートとブックスタートプラスで、絵本の読み聞かせや会場案内・整備等を職員に協力する形で実施。
スイミーおはなし会	主に竹間沢分館で、幼児・小学生向けおはなし会「スイミーおはなし会」を主体となって実施。公民館や地域でも依頼に応じて読み聞かせの会等を実施。
おはなしサークルかにかにこそこそ	図書館主催「お話の講習会」がきっかけで誕生した、昔話などを覚えて語る（ストーリーテリング）活動をするサークル。子ども向けに図書館、小学校、保育所（園）、児童館等で語る他、公民館、歴史民俗資料館等で大人に語る活動も実施。
中央図書館 館内展示ボランティア	展示ケースの中に手製の人形を展示し、さまざまな絵本や物語の世界を、季節感豊かに紹介。



ボランティアによる
ストーリーテリング
(中央図書館)



ボランティアによる
読み聞かせ
(図書館
竹間沢分館)



ボランティアによる
館内掲示
(中央図書館)

***学校における読書推進に協力するボランティア 【小・中学校】**

平成28年度現在、町内の全小学校（5校）で、学校応援団や地域ボランティアの協力を得た読書推進の取組を行っています。学校は、窓口となる担当を明確にし、ボランティアが円滑に活動できるように努め、学校とボランティアが意思疎通を図りながら活動を充実させます。

平成28年度現在、中学校（3校）ではボランティアによる読書推進の取組は実施されていません。今後、必要に応じて、学校応援団や読書ボランティアの協力を得る機会をつくるように努めます。

<学校における読書推進に協力するボランティア一覧>

	名 称	主 な 活 動 内 容
三芳 小学校	学校応援団 「よむよむポケット」読み聞かせボランティア	月2～3回、朝読書の時間(8:30～8:40)に教室で読み聞かせ
藤久保 小学校	学校応援団 読み聞かせボランティア「空風流（カラフル）」	月2～3回、朝読書の時間(8:30～8:40)に教室で読み聞かせ
上富 小学校	学校応援団 読み聞かせボランティア「ブックトレイン」	月15回程度、朝読書の時間(8:30～8:40)に教室で読み聞かせ
唐沢 小学校	学校応援団 読み聞かせグループ「ミック」	年25回程度、朝読書の時間(8:30～8:45)に教室で読み聞かせ
	学校応援団 図書整理グループ	年4回程度、図書の整理・修理などを実施。
竹間沢 小学校	学校応援団 読み聞かせボランティア「モモ」	年15回程度、朝読書の時間(8:20～8:40)に教室で読み聞かせ
	学校応援団 図書整備ボランティア	年3回程度、図書の整理、書棚の掃除などを実施。

※教頭・司書教諭（図書主任）・学校司書などが、連絡窓口となっている。



ボランティアによる
読み聞かせ（小学校）

○読書ボランティア等の活動支援**【図書館】**

* 図書館は、読書ボランティア自身が力を付けて質の高い活動を実施できるよう、情報提供と活動支援に努め、研修会・講習会などを実施します。

* 図書館は、町の「広報みよし」等で、子どもと本を結ぶ読書ボランティアの活動を町民に積極的に紹介し、町民のボランティアへの参加促進を図ります。

○読書ボランティア等のネットワークづくり**【図書館】***** 町民による「子どもの読書環境サポート隊“ほんのむし”」の活動**

平成15年度に結成された“子どもの読書環境サポート隊‘ほんのむし’”は、地域の読書環境向上を願う気持ちと、“町ぐるみで子どもを本好きに！”という思いから、図書館や学校で活動する読書ボランティアが発起人となり誕生しました。

“ほんのむし”は、学校や図書館等で読み聞かせやストーリーテリングをする複数のボランティアグループが、相互の交流や情報交換の場を求め、質の高い活動を目指しています。参加者の様々なニーズに応えたテーマ（読み聞かせの本選び・読み方、グループの運営について等）

で勉強会を開催し、ボランティア同士のネットワークづくりに貢献しています。

ボランティアがともに学ぶことで、町内すべての学校で、すべての子どもたちが質の高い読書支援を受けられることを目指します。

図書館は、“ほんのむし”との連携を深め、勉強会への講師派遣や図書情報提供など、その活動を積極的に支援します。



“ほんのむし”主催のおはなし会

*** 読書ボランティアの紹介と、“活動の場”紹介のネットワークづくり**

図書館は、町内の読書ボランティアの養成に励むとともに、個人の読書ボランティアやボランティアグループの活動情報を収集・把握し、ボランティアを必要とする学校、保育所（園）・幼稚園、児童館、学童保育室等の施設や、社会福祉協議会、学校PTA等に、読書ボランティアを紹介するネットワークの構築に努めます。

3. 子どもの読書に関わる人材の育成

子どもたちの成長や興味・関心に応じて本を紹介し、読書意欲の向上を図るためには、図書館司書だけでなく、司書教諭（図書主任）、学校司書、地域ボランティアなど、多くの大人がそれぞれの立場に関わっていくことが大切です。これら子どもの読書活動に関わる人材の育成・資質向上に努め、子どもたちが適切な本と出会い読書活動を楽しめるように支援します。

（１）図書館児童サービス担当司書の資質向 【図書館】

児童書をよく知り、子どもと本をつなぐ専門的技能を持つ児童担当司書の継続的配置と資質の向上に努めます。本の知識やブックトーク等の技能を高める館内研修を実施するとともに、積極的に外部研修を受講させます。

（２）司書教諭（図書主任）・学校司書の資質向上

【学校教育課・図書館】

司書教諭（図書主任）、学校司書の資質向上を目指し、「三芳町学校図書館教育推進委員会」の中で計画的に研修を実施します。学校司書には、さらに年12回の「司書連絡会」（情報交換と自主研修）と、図書館司書等が講師となる「学校司書研修会」を年3回以上実施します。



学校司書研修会
—学校に揃えたい
ノンフィクション—

（３）保育士等の資質向上

【保育所（園）・幼稚園、児童館、学童保育室】

保育士・幼稚園教諭等の子どもの読書活動に関する知識の向上と理解促進に努めます。図書館司書や外部講師の協力を得るなどし、絵本の知識や読み聞かせの技術をみがく研修機会の提供に努めます。

(4) 読書ボランティアの養成・活動支援 【図書館、小・中学校】

図書館は、読み聞かせやストーリーテリング（おはなし、素話くすばなし）、語り等に携わるボランティアの養成と資質向上のために講座を開催します。また、図書館司書は日頃から、読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトーク等に関する相談に乗れるよう力を付けます。小中学校は、読み聞かせボランティアや学校図書館整備ボランティアの活動の充実を目的とした、ボランティア学習会の開催に努めます。図書館は、学校からの依頼に応じて、情報提供・講師派遣等で積極的に協力するように努めます。



図書館「ボランティア講座—読み聞かせ—」
講師：図書館司書



図書館「読み聞かせボランティア講座—紙芝居—」
講師：吉松美代子氏

基本方針Ⅲ 子どもの読書活動への 理解や関心の普及・啓発

子どもの読書を推進するためには、子どもたちに良質な本を手渡し、読書の楽しみを知ってもらうばかりでなく、保護者をはじめとする周囲の大人にも子どもの読書の大切さを伝え、理解を深めていただくことが不可欠です。

さまざまな機会をとらえて子どもの読書活動への関心を高めるための普及・啓発活動を実施していきます。

1. 「よみ愛・読書のまち」推進と読書活動の啓発・広報

三芳町では、長年、図書館・学校・地域で、子どもの読書活動推進に力を注いできました。また、平成28年4月26日には、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが本に親しみ、本を読み合う喜びを共有できる心豊かな町となることを目指す「“よみ愛・読書のまち”宣言」をしました。こうした動きの中で、町内に子どもの読書活動を応援する大人の輪が広がっています。

今後も、広報やホームページ等の媒体を活用して、子どもの読書活動に関する情報を積極的に発信します。また、保護者やより多くの地域住民・町民に子どもの読書活動の意義を理解していただけるよう、図書館、学校、その他いろいろな町の施設・機関で、子どもの読書に関する講演会を開催する等の啓発活動を実施します。

○「子ども読書の日」(4月23日)の普及 【図書館、小・中学校】

関連事業として、中央図書館では「えほんワールド」等を、小中学校では担任や学校司書が読み聞かせやブックトークを一斉に行う「学校でよもよもday」等を実施することにより、「子ども読書の日」の普及を図ります。

○「よみ愛・読書の日」(毎月23日)の普及

【図書館、小・中学校、保育所(園)・幼稚園、児童館、学童保育室、公民館等】

関連事業として、中央図書館では「ビブリオバトル」(*1)等のさまざまな読書イベントや、周知リーフレット及びポスターによる周知に取り組み、「よみ愛・読書の日」の普及を図ります。

*1 ビブリオバトル：だれもが開催できる、本を紹介するコミュニケーションゲーム。「知的書評合戦」と訳される。

小中学校では、毎月23日又はその前後の給食時に「よみ愛・読書の日」の周知放送を実施する等で、「よみ愛・読書の日」の普及を図ります。その他、保育所（園）・幼稚園、児童館、学童保育室、公民館等さまざまな施設・関連機関で23日又はその前後に、読み聞かせや読書を勧める声かけをし、「よみ愛・読書の日」の普及を図ります。

○子どもの読書活動に関する広報の充実

【図書館、小・中学校・保育所（園）・幼稚園、児童館、公民館等】

町の「広報みよし」、図書館リーフレット、園だより、学校だより、児童館だより、公民館だより等の媒体を活用して、子どもの読書活動の啓発に努めます。また、図書館ホームページの充実を図り、子どもの読書活動に関する情報を積極的に発信します。



広報みよし



○講演会・講座の開催 【中央図書館、生涯学習課、公民館等】

図書館主催事業「子どもの本の講座」・「絵本作家講演会」等を開催し、大人に子どもの読書の大切さを伝える機会を積極的に作ります。また、学校PTAや公民館の講座等でも、子どもの読書に関する啓発を図るよう努めます。

2. 優良な図書の普及

子どもたちは新しい本やはやりの本に目を向けがちですが、いつときの喜びで終わらせず深い感動を与えてくれる本と出会うことができれば、より充実した読書活

動を行うことができます。長年読み継がれている良質な本を子どもたちに紹介し、手渡していくために、おすすめの本を紹介するブックリストを作り、優良な図書の普及を積極的に実施します。

○年齢に応じたブックリストの作成・配布・活用 【図書館】

年齢に応じたおすすめの本を紹介するブックリストを作成し、図書館、学校等を通じて配布するほか、ホームページにも掲載します。ブックリストで紹介した本は、複本で揃え、中央図書館にコーナーを設置して積極的に貸し出します。

***あかちゃんのためのファーストブック (0.1.2歳向)**

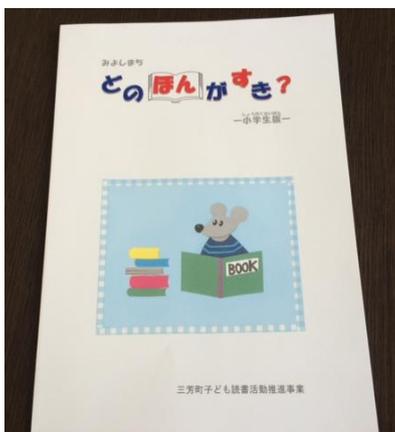
ブックスタート(4か月児健診)のとき進呈絵本と一緒に保護者に渡します。25冊を紹介。読み方等のアドバイス付き。

***ブックスタートプラスみよしーとしょかんのおすすめ絵本50冊(2～6歳向)**

ブックスタートプラス(2歳児歯科健診:2歳6か月児対象)のとき進呈絵本と一緒に保護者に渡します。50冊紹介。読み方等のアドバイス付き。

***みよしまち どのほんがすき?—小学生版— (小学1～6年生向)**

毎年、「子ども読書の日(4月23日)」又はその前後に、図書館司書が全小学校(5校)の朝会に出向き、新1年生全員にブックリストを進呈。中央図書館に常設紹介コーナーを置き、複本を揃えて積極的に貸し出す。小学校との連携により、ここに紹介した本をすべて学校図書館蔵書として揃え、児童が必ず読むことが出来るようにしておく。95冊紹介。本の内容を学年に応じた漢字表記で紹介。



*** なつやすみによもう！ (小学 1.2 年生向、3.4 年生向、5.6 年生向、中学生向)**

毎年夏休み前に、小中学校全校児童生徒に学校を通じて配布。紹介した本は複本で揃え、夏休み期間中、中央図書館・竹間沢分館にコーナーを設置し、積極的に貸し出す。各グレード 8 冊ずつ紹介。簡単な内容紹介付き。

○学校で活用するブックリストの作成・配布・活用

【学校教育課、小・中学校】

*** 「みよしっ子！みんなで読もう、この 1 冊！」 (小学 1 年生～中学 3 年生向)**

毎年「子ども読書の日 (4 月 23 日)」又はその前後に、小中学校で推奨本を紹介するチラシを配布し、ポスターも掲示。各学年 1 冊ずつ、合計 9 冊紹介。簡単な内容紹介付き。紹介した本は、その学年の学級文庫に加えいつでも読めるようにする。

*** 「みよし司書通信 ‘よもよも’」 (小学 1 年生～中学 3 年生向)**

学校司書たちが「司書連絡会」で選んだおすすめの本を、「みよし司書通信 ‘よもよも’」に掲載して全校児童生徒に配布する。紹介した本は学校図書館と中央図書館の蔵書として揃える。毎回 8 冊程度紹介。簡単な内容紹介付き。

第4章 評価指標および数値目標

本計画の進捗状況を把握し、達成度を計るための指標として、次の9項目を挙げます。

○本を読むのが好きだという子どもの割合 (%)

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
小 1.2 年生	88.68	100	「三芳町子どもの読書に関する調査」で、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した子ども
小 3.4 年生	84.56	100	
小 5.6 年生	81.68	100	
中学 1～3 年生	81.17	100	

○1ヶ月の間に本を3冊以上読む子どもの割合 (%)

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
小 1.2 年生	72.08	80	「三芳町子どもの読書に関する調査」で、1ヶ月間に読んだ本が3～5冊、6～9冊、10冊以上と回答した子どもの合計 (学校の授業や朝読書の時間に読んだ本と、参考書・マンガ・雑誌は除く)
小 3.4 年生	71.81	75	
小 5.6 年生	47.27	60	
中学 1～3 年生	28.24	40	

○1ヶ月の間に本を全く読まない子どもの割合 (%)

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
小 1.2 年生	6.04	0	「三芳町子どもの読書に関する調査」で、1ヶ月間に読んだ本が0冊と回答した子ども (学校の授業や朝読書の時間に読んだ本と、参考書・マンガ・雑誌は除く)
小 3.4 年生	6.04	0	
小 5.6 年生	17.04	0	
中学 1～3 年生	15.58	0	

※町内全ての中学校で朝読書を実施しているため、中学生はほぼ全員、この時間に本を読んでいる。

○図書館を利用している子どもの割合 (%)

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
小 1.2 年生	60.00	70	「三芳町子どもの読書に関する調査」で、町の図書館に、「よく行く」「ときどき行く」と回答した子ども
小 3.4 年生	53.02	60	
小 5.6 年生	45.66	55	
中学 1～3 年生	29.55	40	

○学校図書館や学校の図書コーナーを利用している子どもの割合（％）

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
小 1.2 年生	75.47	90	「三芳町子どもの読書に関する調査」で、学校の図書館や図書コーナーに「よく行く」「ときどき行く」と回答した子ども
小 3.4 年生	70.47	90	
小 5.6 年生	54.02	70	
中学 1～3 年生	45.13	60	

○学校図書館の1人当たりの貸出冊数（冊）

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
小学校	31.8	40	学校図書館の本について、1年間の児童生徒1人当たりの貸出数
中学校	9.3	20	

○学校図書館図書標準の充足率（％）

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
小学校	87.12	100	文科省が定めた、学校規模に応じて学校図書館に整備すべき蔵書数に対する、学校図書館蔵書数の割合
中学校	87.34	100	

○子ども一人当たりの図書館事業（児童対象）参加人数（人）

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
	1.16	1.20	0～15歳を対象とする図書館主催・共催事業（学校等、館外実施分も含む）への参加者延べ人数を、0～15歳人口で割った数

※町の0～15歳の子ども全員が図書館の児童対象「読書動機づけ事業」に参加している計算となる。

○ブックスタート・ブックスタートプラスの実施率（％）

	現状値 (H27)	目標値 (H32)	解 説
ブックスタート (4か月児)	96.37	100	町の乳幼児健診の後で、図書館スタッフによる読み聞かせと絵本進呈を行う「ブックスタート」「ブックスタートプラス」を受けた4か月児と2歳6ヶ月児
ブックスタート プラス (2歳6か月児)	84.66	100	